

2020年度 第9回 ライフステージ事例検討会 報告書	
日時	2021年3月2日(火) 17時45分～18時45分
開催施設 参加者数	金沢大学2名、富山大学0名、福井大学2名、石川県立看護大学5名、信州大学3名、 石川県立中央病院14名、公立能登総合病院0名、石川県済生会金沢病院0名、金沢医療センター4名、 公立松任石川中央病院9名、小松市民病院3名、 富山県立中央病院3名、高岡市民病院0名、市立砺波総合病院4名、富山県済生会富山病院2名、 金沢医科大学氷見市民病院0名、厚生連高岡病院0名、富山労災病院3名、 長野赤十字病院3名、諏訪赤十字病7名、福井県立病院10名 会場参加 計74名 その他 個別のオンライン参加 計38名  合計112名
テーマ	「がん終末時の場の希望を叶えるために」
発表者	KKR北陸病院 山瀬 勝巳さん
【意見交換内容】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ過での面会制限は原則禁止とされており、妻は面会ができなくて1人で逝かせたことが後悔だったと語っていた。35日間の自宅療養は、妻の頑張りであったと思う。お互いがその人らしく過ごせた事例であったのではないと思う。</li> <li>・患者が身体的保持ができなくなったとは、どういったことかという質問に、入院当日の5時に転倒し、訪問看護師が緊急訪問を行った。妻と2人でベッドに戻るも自力での体動は困難でトイレに行くのも精一杯の状況であったと説明された。</li> <li>・訪問看護があるから、退院後の継続看護が行えると思うが、往診の医師は元の主治医かという質問に、入院中の主治医がそのまま往診医となったと回答される。</li> <li>・妻が、自宅での療養を前向きに捉えられるようになったきっかけはという質問に、退院を決めた時点で、自宅に伺い妻の気持ちを聞きながら表情を見ながらケアマネージャー、MSWとどンドン話を進めていった。本人の意見を通す形で動いたと回答された。</li> <li>・身体保持ができないため入院するという決断について訪問看護師はどう感じたかという質問には、毎日の訪問では本人のケアが1/3で、妻の思いを聴くことや本人の意志を聞くことが2/3を占めており、妻が無理と言えれば看護師が手伝えできると考えていたと回答された。</li> <li>・「何かあればいつでも戻れる」といった看護師の声がけで妻の気持ちが変わったのかという問いに、看護師も悩んでいた、1回でも家に帰れたという本人の自信が入院を受け入れられた、(そのため、入院で看取るということが)2人のゴールで良かったのではと考えていたと回答された。</li> <li>・本人は入院を嫌がっていたかという質問に、患者本人の意志はなく、妻の意志で入院だったと回答された。</li> <li>・コロナ過で面会ができない状況での入退院の参考になったという意見があった。</li> <li>・「在宅の看取りは妻にも決断が必要であり、病棟看護師や訪問看護師も生きるサポートをしていると思う。家族は弱っていく姿を見るのが怖い」「看取れるかな」「看取りをするのがつらい」という考えをもったと思う。こういってとき、看護師が出来る援助(業)はどういったことがあったか」という問いに、訪問看護師として話を聴くこと、本人のケアもだが、妻の話を聞くことが半分～2/3の割合を占めていたと回答された。</li> <li>・住みやすい環境や、気持ちも一緒に整えていくことが大きかったかという質問に、患者、妻の存在が感じ取られ、どちらも大切にしなければいけない感じがした、妻が逆に壊れてしまうのではないかと思う事例であったと回答された。</li> <li>・終末期の患者の場合、面会の工夫はどうしているかの質問に、主治医が院内の感染委員に許可を得て1回15分以内/日で消毒、検温を実施の上面会を許可しており、短時間のなかで担当看護師が妻と長女に状態を説明していたと回答された。</li> <li>・他の病院では、コロナ禍で工夫していることとして、「1回10分/日の面会を許可しており、家族によっては面会が長くなることもあったが、そこは辛い気持ちのまま帰っていただいた。ホスピスなどでは、予後が短くなると面会が緩やかになっていた。」と回答された。</li> <li>・家族のみならず、医療従事者も心を痛めており、様々な工夫をしている。環境を整える以外に、家族に寄り添って1人ではないことを不安な家族に声をかけ、見離されていないことを伝えることも必要といった意見が出た。</li> <li>・家族の心情に沿うことが大事であることや、「短い関わり」でも積極的に話をするすることで、家族は見慣れた顔に安心することから、面会への支援として、一瞬の家族との繋がりを考えさせられると言った意見も聞かれた。</li> </ul>
ミニレクチャー	「コロナ禍のがん終末期ケアを考える」